

# 学校評価の重点化による学校改善

札幌市立清田小学校

## I はじめに

### 改善策の重点化具体化をめざす学校評価

### 1 本校における学校評価のねらい

本校においては学校教育目標具現化に向け教育活動その他の学校運営について、全職員の共通理解のもと目標と具体策を設定し、その取組の適切さについて評価し、組織的継続的な改善を図ってきている。保護者や地域住民に対しては、様々な機会において方法を工夫しながら説明責任、連携協力の促進を図ってきている。「評価のための評価に終わらない」「指導と評価の一致」の考えのもと、改善策の具体化と重点化を大事にし、学校評価の充実が子どもにとっての良い教育活動享受につながることを目指してきている。

### 2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

本校では、昨年の年度末評価の中で、運動会、現地学習、縦割り活動、入学式について改善を進めることをもとに下記の点について教育活動を見直した。

- (1) 学年協同・協働の充実
- (2) 重点をかけることを明確にした実践
- (3) 基礎的・基本的な内容の定着
- (4) 時間内で取り組むことができるシステムづくり
- (5) 生活科・総合的な学習の時間の教育課程を学年間のつながり、地域との密着の深化をめざし、テーマの目標・内容も含めて整理すること。

## II 本校の学校評価システム

### 学校評価システム

### 1 自己評価と評価委員会

評価委員会は、教務主任と各部（行事、学級活動、児童活動、研修）の部長で構成し、校長と教頭は必要に応じて指導的立場で参加している。本校は部門長会＝教育課程委員会であり、学校全体を創造しながら広い視野で学校評価を行うことが可能となっている。自己評価を含め評価の年間計画、実施方法、会議の持ち方、各学年や各部の連携や調整すべての評価活動に責任を担っている。

### 2 学校関係者評価委員会

学校説明会・報告会へ参加しご意見をいただくとともに、年度末自己評価書を事前にお渡しし校内中間評価と年度末評価のまとめについて評価をいただいている。委員会の中でいただいた意見も含めて、学校関係者評価書にまとめHP・学校便りを通して公表している。

### Ⅲ 学校評価の年間の流れ

	自 己 評 価				学校関係者評価
	学 校 (教職員)	児 童	保 護 者	地 域	学校関係者評価委員会
4	・ 参観懇談・PTA総会・家庭訪問	目 標 カ ー ド 作 成			・ PTA総会ご案内
5	・ 運動会	いじめ調査 運動会カード			・ 運動会観覧
6	・ 参観懇談会と学校教育説明会			スカーゲン地区 中学校区青少年 懇談会	・ 第一回学校関係者評価 学校説明会参加後委員会
7	・ 教育相談会	1 学 期 の 自 己 評 価			
8	・ 職員会議で中間評価提案				
9	・ 学校公開日 ・ 中間自己評価実施・評価委員会			学 校 公 開 日	・ 学校の前期評価を発送
10	・ 中間評価全体会 ・ 保護者、地域に中間評価のまとめ 公表（学校便り、ホームページ）	学 習 発 表 会 カ ー ド		中 学 校 区 青 少 年 健 健 懇 談 会	・ 第二回学校関係者評価 前期評価と改善計画 ・ HPで評価のまとめ公開
11	・ 学習発表会 ・ 職員会議で年度末 評価と保護者アンケート提案	いじめ調査			・ 学習発表会観覧
12	・ 教育相談会 ・ 年度末自己評価実施	2 学 期 の 自 己 評 価	保 護 者 ア ン ケ ー ト 実 施		
1	・ 評価委員会→各部会→評価委員会				学校の年度末評価を発送
2	・ 年度末評価全体会 ・ 参観懇談会と学校教育報告会 ・ 保護者、地域に年度末評価のまとめを 公表（学校便り、ホームページ）				・ 第三回学校関係者評価 学校報告会参加後委員会 ・ HPで評価のまとめ公開
3	・ 次年度教育計画 ・ 懇談会	1 年 間 の 自 己 評 価			・ 卒業式来賓として参加

## IV 学校評価の方法

### 1 自己評価

#### (1) 項目の設定

中間評価と年度末評価のねらいをしぼる

項目の設定は一番考慮しなくてはならない所である。本年度の学校経営方針達成に向けた具体的な取組を評価項目として設定する。しかし、網羅的だったり詳細すぎたりしないように気をつけなければならない。評価項目について自己評価することが自分の学級・学年・分掌の経営について、じっくり考え直すきっかけになることが大切である。そのため評価委員会が全校児童の育ちや課題と、後期に向けての改善方向をある程度見通した上で評価書を作成することが求められる。

#### 【中間評価】

本校は自己評価書＝学級経営案と押さえ、「学級担任は学年担任」という理念のもと学年経営案を作成している。中間評価は『学年・学級の窓口からの自己評価』と押さえている。担任が4項目「学校重点目標」「学習指導」「心の指導」「教育環境」について、具体的な手だてや取組を通して子どもの育ちに結びつけることができたのかを達成状況と自由記述で評価している。担任をもっていない教職員については、かかわりがある範囲で見える児童の育ちについて評価している。

#### 【年度末評価】

教育活動、学校運営の全般にわたり、昨年度の評価と比較をしながら次年度の方針に結びつくことを意識し作成する。毎月の職員会議で反省と次年度への方向性が見えている内容については重複をさけ評価項目を精選する方向で考えた。1年間という大きなスパン、各部各学年のつながりなど全体のバランスを考えての評価に結びつく評価項目を作成している。

保護者アンケートが考えるきっかけに

#### (2) 児童・保護者アンケートの実施

例年、12月の教育相談会終了後保護者アンケートを実施している。今までは一家庭で1枚の提出だったが、今年度からは児童一人に1枚の評価をお願いした。また原則的に記名をしてもらい、回収率を上げることと、学校への要望や疑問をもたれた方に担任が直接応えられるように改訂した。評価項目では教職員の評価との連動を考慮するとともに、児童全体に対する評価と、自分の子どもに限った評価つまり家庭教育の振り返りを評価してもらう項目を入れている。また学校としての具体的な取組をアンケート配布時に文章として知らせることで、評価して欲しい内容が正しく伝わるように工夫した。

評価委員会が指導性発揮

#### (3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

自己評価は、達成状況を4段階（Aとてもそう思う B少しそう思う Cあまりそう思わない D全くそう思わない）から評価することと自由記述の両方で実施している。統計分析後C・D評価が多い項目については、課題の背景を明らかにし、どの分掌に改善策を考えてもらうかの舵取りが評価委員会の仕事となる。改善策を打ち出すとともに具体的な指導内容まで教職員全体の共通理解をもって推し進めていくことを大事にしている。最終的な自己評価書については、広く保護者・地域に公開するため、結果と今後の改善方策を簡潔・明瞭に記述することを心がける。

すぐに改善策実行へ

#### (4) 改善策の検討

教育課程全般にかかわる課題については評価委員会が責任をもって改善策を示すが、当該分掌において改善策を検討する時は評価委員である部門長が学校全体を見ながらの改善策作成に指導性を発揮する。その後評価委員会で検討を加えた上で評価全体会へ提案し、会議の中ですぐに改善に向かうことの重要性を共通理解する。

### 2 学校関係者評価

#### (1) 学校関係者評価委員の構成と役割

学校評議員（青少年健全育成会主任児童委員、町内会連合会副会長、児童会館館長、まちづくりセンター所長）とPTA会長の5名で構成している。教務主任が中心となって会を進め、校長・教頭が説明を行っている。学校行事・参観日に来校いただき、常日頃から学校教育への理解を深めて頂く機会を大事にしている。事前に学校の自己評価書を送付し、委員会の中では自己評価書の項目に沿ってご意見を頂いていくが、常に双方向の連携のもと評価が効果的に働くことを大事にしている。

#### (2) 学校関係者評価書の作成

学校自己評価書を基つきご意見をいただいた改善方策については、再度評価委員会で検討し、学校関係者評価書を作成する。

## V 評価結果の公表

### 1 公表の方法

保護者・地域には、中間、年度末評価の分析と改善方策について学校便りとホームページにて公表している。また、学校教育説明会・報告会では全職員がそれぞれの立場からパネラーとして保護者に直接主張する場を設けている。PTA運営委員会でも積極的に学校の取組をアピールするとともに忌憚のない意見を受け、学級委員から保護者全体へ学校の教育活動が伝わることも目指している。保護者アンケートについては内容によって担任から直接説明をすることでより学校に対する信頼を厚いものに向かわせている。

### 2 公表の効果

今までも学校内で改善策を推し進めることに重点をおいてきているが、公表することでますます一人一人の職員が、その責任を重く受け止めるようになった。子どもの成長した姿こそが一番のよい評価を受けることになることの意識が強くなっている。

今年度初めて取り組んだパネルディスカッションスタイルの学校教育説明会・報告会は、「いろいろな先生の話聞くことができ、幅広い情報を得ることができる。」と保護者から好評であった。またその場に参加していただいた学校関係者委員の方の教育活動への夢が語られたこともあり、保護者に地域全体で子どもを育てようとしていることをアピールするよい機会となった。

## VI 成果と課題

### 【成果】

- ・主観的で教職員の強い思いが先行していた校内評価から、保護者・地域からの客観的評価も取り入れ、より強くその責任を受け止めた具体的な改善の方策が出されるようになった。
- ・教職員全体が学校組織の一員である意識を強くし、学校経営への参画意識を高めている。特に評価委員のメンバーのミドルリーダーとしての自覚が強くなった。
- ・「もっと学校のことを知ろう」「もっと学校に協力しよう」「自らの家庭教育を見直そう」という保護者の意識が育ってきている。

### 【課題】

- ・保護者、地域と学校の双方向の連携協力体制の在り方をさぐる必要がある。
- ・評価実施→集計と分析→評価改善策の全体計画作成→分掌で改善策を検討→評価委員会でまとめる→評価全体会→公表の一連の流れにはかなりの時間を要する。特に中間評価実施の時期を早めないで、後期に向けての改善計画がスタートするのが2学期後半にずれ込んでしまう。効率的な評価で効果をあげる在り方を検討していく必要がある。

# 自己評価(中間評価)

- 1 自己評価結果(中間評価です。学年・学級の窓口から評価してください。そこから、個人の問題か、学校運営の問題かを明らかにして改善策を具体的に記述して下さい。)  
 \*達成状況: A=とてもそう思う B=少しそう思う C=あまりそう思わない D=全くそう思わない

分野	評価項目	自己評価		評価項目をもう少し具体的に考えてみました
		達成状況	改善の方策(記述)	
重点目標	スリム化をめざし、重点をかけるところを明確にした実践が行われたか。			・重点をおいた学年、学級経営・ポイントを絞った育てたい子どもの姿・見通し
	創意ある教育課程編成が行われたか。			・清田っ子活動・朝読書 寄附図書の利用 読みきかせ活動 ・総合的な学習の確立・英語活動の推進・道徳の充実・ひまわりの学級との交流
	学校共同・協働体制がなされたか。			・複数の目で児童理解・授業研修の充実・学年合同授業と教科分担・学年朝会・学年研修の充実・統一した生活指導 ・先生の特長を生かした・公平な仕事分担
	学びの支援委員会と連携し学級への効果的な支援を行うことができたか。			・多面的な児童理解・スクールカウンセラーや巡回指導員・学びの支援全体会、支援委員会からの働きかけで学ぶ
学習	基礎的・基本的な内容の確実な定着			・反復練習・おはようタイムの学習・宿題や家庭学習・ノート指導の徹底・音読練習の工夫・評価の工夫・子ども

## H20後期 校内改善PART4

### 家庭でも学習する習慣づくりの啓発

～自分の力に合わせて自分で目標をもち家庭でも意欲的に学習する～

○宿題 学年統一した内容・方法が前提  
 現在の清田の現実からは宿題が必要

- ・担任が学級の児童全員に一律に課す学習。児童に選択の余地はない。
- ・教科の学習の復習を中心に基礎的な内容の定着を目的とする。

中間評価分析後  
 評価委員会で打ち出した「校内改善4つのプラン」  
 学校便り・HPで発信

# 保護者アンケート (年組)

平成20年度

- 達成状況につきましては、ABCDEのいずれか1つに ○をつけてください。  
 A=とてもそう思う B=そう思う C=思わない D=わからない

	評価項目	達成状況			
学校の教育活動	①「元気よく、気持ちのよい挨拶を自分からしよう」という指導を続けています。学校行事・参観日など学校内で会った時、清田小の子どもたちは気持ちがよい挨拶をしていますか。	A 自由記	B	C	D
	②朝の読書、読みきかせの活動、そして日常的に読書の時間を各学級で大事にしています。図書館での貸し出しも毎日行っています。お子さんは、読書に親しむ様子が見られていますか。	A 自由記	B	C	D
	③大きな行事として「入学式、運動会、学習発表会など」があります。各行事の目標に向けて、練習、話し合い、約束事の見直しや徹底に力を入れます。いろいろな取り組みを通してお子さんが意欲的になったり、成長したりする姿が見られますか。	A 自由記	B	C	D

# 平成20年度 自己評価(年度末評価) NO1 お名前( )

A・B・C・D A…とてもそう思う B…少しそう思う C…あまりそう思わない D…全くそう思わない  
 A・Bでも、できれば「結果を残せた実践紹介」「更なる改善を求めて」記述、 C・Dは必ず「改善の方策」を記述

	反省項目	評価・反省・課題	「具体的にこんな所から評価してみてください」例
学校 経営 の5 重点 目標 の具 現化 の視 点に たっ て実 践が なさ れま した か。	①教育目標の達成 本年度の重点目標「温かさと活力のある教育活動の推進～すべては子どものために～」の達成を図ることができましたか。	A・B・C・D	「支え合い励まし合い協働の精神で動く教師集団」「自分の学級学年、校務分掌に責任と厳しさをもつ教師集団」「風通しのよい教師集団」が「自ら動く子ども」(学ぶ力、仲よくする力、進んで働く力)を育てたかどうか・
	②(1)子どもを主体とした活気あふれる学校づくりに努める。	A・B・C・D	子どもたちひとりひとりを大切にした教育・ほめてまかせて育てる教育・個性を尊重する教育・集団生活の行動規範を育てる教育・健康力の増進をはかる教育・豊かな心、生命の尊重、思いやり、美しいものに感動する心を育てる教育・児童活動全体から・仲間作り
	重点(2)学び方を身につけ、意欲的に学ぶ子どもを育てる。	A・B・C・D	・研修部 教務の連携・学び方の押さえ(聞く、話す、書くなど) <b>宿題を学習の進め方・基礎的・基本的内容の確実な定着</b> ・考えることが楽しくなる授業
	③(3)創意ある教育課程の編成・実施・評価・改善を行う	A・B・C・D	・総合の教育課程・総合の財産作り・外国語活動の推進・道徳教育の充実・協働共同学習の推進・朝読書・行事の精選と軽重
	(4)共同研究の深化を図り、専門性を高め、創意ある教育活動を目指す研修を推進する。	A・B・C・D	・校内研修の充実・部内研、全校研の充実・清田の授業の財産作り・日常の授業改善・特別支援教育の理念尊重・授業技術の向上・教材研究、開発・算数授業技術向上・英語活動の目的、流し方、教材
④(5)豊かな心を育む教育環境をつくる～地域と共に歩む学校～	A・B・C・D	・安全、安心な環境作り・清田の自然歴史を積極的に活用・福祉施設との交流・幼稚園との交流・中学校との交流・地域の行事への参加・ゆめたんぼの活用・読みきかせボランティア・生活科で地域と連携	
実践に	③校務分掌	A・B・C・D	・仕事がモーラされているか・分担がはっきりしない仕事がないか・仕事の一部の人に偏っていないか・それぞれの分掌に責任をもったか

## 学校関係者評価

中間評価のまとめは、あまり方向性を絞らない話し合いの中からまとめる

※太字は、学校がすぐに改善に動く内容

(1) 地域と学校、双方向の交流を深めることをめざす学校づくり

○地域の力を学校教育に

- ・昔の方が「開かれた学校」という言葉を使わなくても、地域と学校がいっしょになって行事に取り組んでいた
- ・地域としても教育活動の幅が広がることへの協力体制を進めたい
- ・地域の人が清田小学校の子どもを見守る意識の高揚を図りたい

○学校の力が地域のために

- ・子どもたちが地域の行事に積極的に参加するように学校で働きかけていく
- ・先生自身が地域を知り、地域の行事に積極的に参加する
- ・地域の人との交流を深める
- ・地域の施設の活用を推し進める

(2) 将来社会人となった時の基本的なルールを学ばせる学校づくり

○挨拶

- ・自分から気持ちの良い挨拶をできる子を増やしたい
- ・大人からどんどん子どもへ挨拶の言葉をかけていく

○話を聞く 清田の子はもっと落ち着いて人の話を聞けるようにならなくてはならない

(例1)「郷土館祭り」

- ・清田の歴史を学ぶ場・なごやかな雰囲気の中でお年寄りとお年寄りの交流を深める・児童会館との連携・学校では表出しないそれぞれの子どもよさが引き出される

年度末評価は、学校作成の自己評価書に絞って評価をしていただく